令和5年度　山形県立小国高等学校　学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

【学年評価①】

校　訓	「自律・忍耐・向上」
メインテーマ	「挑め、ともに！」
学校教育目標	1　郷土に誇りと愛着を持ち、学び続けながらよりよい地域づくりに主体的に関わる人材を育成する。
	2　健康で豊かな人間性を持ち、新たな価値創造に挑む人材を育成する。
	3　多様性や個性を認め、他者を尊重しながら協働できる人材を育成する。
学校経営方針	「生徒一人ひとりが輝く活気ある学校」を実現する。 ＊＊＊　育成したい資質・能力　＊＊＊（学校教育目標の実現のために） 1　主体性　「自己理解・自己肯定感・学ぶ意欲・計画力・意思ある選択・創造的市民性」 2　挑戦心　「情報収集活用力・課題設定力・共感力・思考力・創造力・行動力・やり抜く力・伝える力・振り返る力」 3　協働力　「受容力・対話力・共創力・持続可能性意識・グローカル意識」

達成度
A：達成できた
B：ほぼ達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標	重点取組	学年	重点取組に対する具体的方策	評価	年度末達成状況	学校関係者評価 （令和6年2月15日） 自己評価に対する評価
1　キャリア教育の推進と主体的・協働的な学習活動による目指す「資質・能力」の育成	① 国指定事業の発展・充実を図るとともに、教科学習と探究学習の往還や教科等横断的な学びを通し、目指す「資質・能力」の育成を図る。 ② 主体的・対話的で深い学びの視点での授業実践と継続的授業改善を進め、学習意欲の向上を図りながら確かな「学力」を身に付けさせる。 ③ 地域や企業・大学等と連携したキャリア教育や体験的教育活動を推進する。 ④ 個々の進路希望の実現を目指し、早期に意欲的・計画的に学習する姿勢を育てるとともに、ICTを活用した「個別最適な学び」の研究をさらに進める。 ⑤ 図書館を積極的に活用し、教養を高めるとともに豊かな心の醸成を図る。	1年	○自己理解を深めるために、諸活動を通して校内外で様々な人と係わるだけでなく、活動の事前・事後に思索する機会を設ける。 ○授業、学校行事、校外での活動を通して、意図的に自分一人で取り組む場面や仲間と協働する場面を設けて、「主体性、挑戦心、協働力」の育成を図る。 ○各生徒に貸与されているChromebookと図書館に配置されている書籍の使い分けを行い、目的に応じた情報媒体の活用を促進する。	B	諸活動の事前準備やまとめ指導は丁寧に行うことができたが、まとめシートについては個人の取り組みに差が見られた。 協働する様々な場面が設けられ、生徒が考えを伝える力については一定の成長が見られた。校外ボランティア活動や放課後活動についても、多くの一年生が自発的に参加した。 特定の生徒は図書室の利用頻度が高いが、他の生徒は必ずしも活用が多くない。二学期後半から、朝学習の時間にキュビナやスタディサプリを活用した個別学習を進める体制が整ってきた。	・今は365であったり白い森であったり、小国町以外の風が入ってきます。これだけでも学ぶべきことはたくさんあると思います。ベースを作り上げるためのいい材料になっているのではないでしょうか。 ・「まとめシートについては個人の取り組みに差が見られた。」とのことですので、書かない・書けない生徒さんに対して、まとめる・書くというご指導を丁寧に行っていただきたいと思います。 ・校外ボランティア活動に自発的に参加出来たという事は、学校教育目標に沿った素晴らしい活動だと思います。 ・図書室について利用の差があるとの事なので、この差を今後どう埋めていくかがポイントだと思います。この差はこの先開いていくと大きく変わってくると思いますので。 ・入学当初と比べると生徒の主体性や協働への意識が改善していると感じる。図書活動に関しては、書籍に限らずインターネット記事なども「読書」としてみてはどうか ・ボランティアへの自発的な参加というのが頼もしく思います。
		2年	○白い森未来探究学において、校内外で活発に活動できるように、面談などで適切な情報を与える。 ○常に生徒情報を共有し、効果的な指導方法を探る。 ○インターンシップで企業の方と働くことにより職業観・勤労観を深める。事後に課題改善意識を持ちながら生活できるように助言する。 ○生徒面談を行い、学校生活の課題解決策や進路志望達成に向けて助言を与える。 ○朝読書、読書会の意義を伝え、読書活動を活発化する。	B	面談で個々の探究活動に応じた情報を与えたことにより、地域での活動や大人との交流につなげることができた。 常に生徒情報を養護教諭とも共有し、適切な生徒指導・学習指導を行った。（心配な生徒への面談、町支援学習、＋1週間、感染症出席停止期間課題など） 全員3日間実施できた。翌日に振り返りを行い、働くことの意義を考え、今後の目標を設定した。 学年団が全員と面談し、生活・学習・進路について助言した。生徒の悩み相談に適切に対応し、高い出席率を維持できた。 貸出数は昨年同時期とほぼ同じである。	・生徒との会話が重要です。日々会話することで細かなところまで確認することが出来ると思います。会話能力の社会に必要な力ですので、継続して欲しいと思います。 ・学年団が生徒全員と面談されたとのことで、来年度も引き続き、学習の面・キャリアの面・生活の面で、学年団で生徒全員を見守りながら適切にご指導いただきたいと思います。 ・中間進捗状況と年度末進捗状況の文言の変化が無いという事は、中間の時点で今年の活動が終了しているかのような印象を与えている。中間の時点で貸し出し数が同等であればもう1声で前年を超えて欲しかった。 ・この学年も昨年度と比べるとおおきな成長を感じる。希望の進路に向け主体的に学習しマイプロなどに取り組んでいる生徒が多く見られた。 ・適切に生徒と向き合い、対応できていると思います。
		3年	○白い森未来探究学や進路活動を通して地域の方など大人との対話を積極的に促し、将来に向けて対話力と思考力を高めるとともに、生徒一人ひとりが納得した進路を実現できるように支援する。 ○進路実現に向けた基礎学力の定着と応用力の育成に努め、計画的に学習する姿勢や自主的な学習習慣の確立を図る。 ○新聞や読書を通して視野を広げるとともに、生涯にわたり自分に必要な知識を習得できるように指導する。	A	進路についての面談や、探究の時間を活用し面接・小論文等の対策を行い、希望の進路を実現することができた。地域構想学発表会では提案を堂々と発表することができた。 HRや授業を通して、進路実現のための基礎学力の必要性を声掛けした。また、朝学習では自己の進路に必要な学習を行うことができた。 学級新聞を活用し、新聞を読み意見をまとめる取り組みを行った。朝読書は集中して臨むことができた。	・活字離れが社会的にも言われていますが、力を身に着けることは、何をする上でも基礎になると思います。読書に限らず、文字を読みこむ重要性を今後も伝えて欲しいと思います。 ・生徒全員が希望の進路に進むことができたのが見事な成果です。 ・3年生らしく自身の進路に関して取組みが出来たとの事で良かったと思います。A評価という事で来年度の3年生にもぜひ継続して頂きたい。 ・希望の進路を実現出来たことは、大きく評価できると思います。
2　きめ細やかな生徒指導の充実	① 基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成、また、特別支援体制の充実を図る。 ② あいさつの励行と規範意識を涵養する。 ③ 学校行事やボランティア活動等への主体的な取り組みにより生徒一人ひとりの自己有用感を醸成するとともに社会とのつながりを意識させる。 ④ いじめのない学校を目指し、継続的にいじめ防止対策を徹底する。 ⑤ 地域と連携しながら放課後活動の充実を図る。	1年	○自分の心身の状態・傾向に気づき、その対処の仕方について自己決定し、主体的に考えることができるよう指導する。 ○自分が「やりたいこと」への挑戦から、自己有用感を醸成し、他者を受容する心の安定と規範意識の涵養を図る。 ○基本的な生活習慣の確立を図る中で、生徒が抱える自己や対人的な問題に係る不安を早期に把握し、保護者、MC特支委員会、町教育委員会などとも連携して状況の改善に務める。	B	二学期末の仮評定が全体的に低かった（評定1相当の生徒が複数）。評定が進路選択に影響することが認識できない生徒に対して、プラス1週間等を通じて個別指導を行った。 小国フェスや生徒会役員に参加する中で、主体的に発案し、行動しようとする生徒は少しずつではあるが増えてきた。 生徒、保護者、授業担当教員からの相談や情報提供を受け、適切なタイミングで面談を実施できた。	・評定1相当の生徒が複数名いるということは大変気がかりなことです。評定が2年後の進路選択の際に非常に悪影響を及ぼすことを、学年団が1年生という段階できちんと指導できたことは良かったです。しかしながら、おそらくあまり理解していない可能性が高いので、折を見て、繰り返し、ご指導いただければと思います。 ・評定1相当の生徒が複数という点がすごく気になります。高校の授業が難しいのは承知しているが、 このまま進むのは危険な気がします。学年によって学力の差があるは理解しているが、改善すべき点と思います。 ・生徒の進路選択に対し地域だけでなく、同世代との交流も刺激となるはず。他校生との交流がスムーズにいくよう、コミュニケーションや協働力の大事さを伝えることが欠かせないと思う。 ・学年全体の底上げが必要であると感じます。
		2年	○朝の健康観察で体調を確認し、自己管理能力の形成に向けて声掛けする。特別な支援が必要な生徒の個性を把握し、生徒の活動しやすい方法を考える。 ○学校を代表する立場としての行動を意識させ、規範意識を育む。 ○活動の目的、意義を伝え、仲間の取り組みを認め合う雰囲気を醸成する。 ○地域みらい留学生に対して、教員・CN・町で常に情報を共有して支援する。	A	登校前のさくら連絡網、朝のHRで体調を把握し、健康管理の大切さを養護教諭と連携し声掛けした。随時生徒の状況を見ながら、様々な活動をできるように支援した。 小規模校サミット、インターンシップ、マイプロジェクトなど外部で活動する機会を設け、必要な規範意識を持たせ、リーダーシップを養成できた。 授業、生徒会活動、学校行事などで多くのワークショップを実施し、互いの意見を認め合う生徒、場を作り出せた。 教員、CN、町、在籍校で情報を共有し、留学生と保護者に適切な連絡及び連携した支援を続けた。	・校外での活動が、規範意識を育てることやリーダーシップを身に付けることに繋がったことは、大変良いことでした。 ・自立していくための知識・力量を身につけられた1年間だったのだと想像できます。また、リーダーシップを養成できたということで、社会に出ても必要なスキルなので、徐々にその力を発揮できるようもう1年間頑張って頂きたいです。 ・大きな行事を通じてリーダーシップが育っていると思います。
		3年	○朝の健康観察等で体調の変化に気を配り、将来に必要な自己管理能力を育めるような声掛けを行う。 ○仲間や地域と繋がりの中で、学校を代表する立場としての自覚を持たせ、規範意識を醸成する。 ○様々な役割を担う中でリーダーシップを発揮し、多様性を受容しお互いが認め合えるような関係を築くための協働力を醸成する。	B	気になる様子の生徒には声掛けを行うことができた。 規範意識を持たせる指導を行うことができた。学習や様々な活動に上級生としての意識を持って臨むことができた。 概ね良好な環境や人間関係を構築できている。必要に応じて、声掛けやアドバイスを行った。	・社会に出る前に、規範意識を持たせる指導を行うことができたことは、生徒にとってプラスになることだと思います。 ・校内の最上級生としての意識を持って様々な活動が出来たとの事なので、これを進学・就職に生かして頂きたいと思います。 ・個人的にはよく指導されており、全体的に良好であると思います。

令和5年度　山形県立小国高等学校　学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

【学年評価②】

校　訓	「自律・忍耐・向上」
メインテーマ	「挑め、ともに！」
学校教育目標	1　郷土に誇りと愛着を持ち、学び続けながらよりよい地域づくりに主体的に関わる人材を育成する。
	2　健康で豊かな人間性を持ち、新たな価値創造に挑む人材を育成する。
	3　多様性や個性を認め、他者を尊重しながら協働できる人材を育成する。
学校経営方針	「生徒一人ひとりが輝く活気ある学校」を実現する。 ＊＊＊　育成したい資質・能力　＊＊＊（学校教育目標の実現のために） 1　主体性　「自己理解・自己肯定感・学ぶ意欲・計画力・意思ある選択・創造的市民性」 2　挑戦心　「情報収集活用力・課題設定力・共感力・思考力・創造力・行動力・やり抜く力・伝える力・振り返る力」 3　協働力　「受容力・対話力・共創力・持続可能性意識・グローカル意識」

達成度
A：達成できた
B：ほぼ達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標	重点取組	学年	重点取組に対する具体的方策	評価	年度末達成状況	学校関係者評価 （令和6年2月15日） 自己評価に対する評価
3　安心・安全かつ信頼される学校づくり	①　学校・家庭・地域が一体となった活力ある協働関係を構築する。 ②　PTA活動を通して家庭・地域と連携を強化する。 ③ 特色ある教育活動や生徒の活躍を積極的に発信し、学校の魅力を外部に伝える。 ④ 危機管理体制を維持し、事故防止に努める。	1年	○家庭や地域との協働関係を促進するために、学年通信やさくら連絡網を含むSNSを活用しながら生徒の学びの様子を積極的に広報する。 ○命の大切さ、他者を思いやる心を育み、安心で安全な学校生活を送るために、危険を回避する思考・判断ができるよう注意換気を行いながら事故の未然防止に努める。	A	これまでに学年通信を4回発行し、学校生活の様子を保護者に伝えることができた。来年度の研修旅行に係る保護者への報告も適切に行うことができた。 個別案件への対応は時折あるが、生徒同士のつながりがある程度落ち着いてきたため、命の大切さ、他者を思いやる心について、全体指導により注力できるようになった。	・小規模校の特色を活かし、保護者との対話も深めていただければと思います。 ・学年通信を計4回発行することができ、保護者に学校内での生徒の様子を伝えることができて何よりです。 ・様々な情報発信が出来たとの事で、保護者などからの理解を得られた1年だったと思います。2年・3年と継続して頂き、前年度+αを目指して行って頂きたいです。 ・この学年の生徒とは、中学の放課後学習会で接する機会があり、その際は特に言葉の暴力が見て取れ閉口した場面もあった。幼少期からの付き合いのクラスメートにも、配慮ある言動は必須と理解してほしい。 ・命の大切さや他者への思いやりが指導できているなら、評価できます。保護者への報告もよくやっていると思います。
		2年	○HR、学年通信、学年部会などで、家庭や地域へ活動の意義・目的・成果などを伝える。 ○学年部会、研修旅行説明会などを開催し、家庭との協力体制を築く。 ○さくら連絡網・HP・SNSを活用し、生徒の学びの様子を発信する。 ○命の大切さ、他者を思いやる気持ちを尊重し、適切な対応力を育む。	B	年度当初、学期末に学年通信を発行した。生徒の活動の様子と成果、保護者へご協力とお礼を伝えた。 PTA総会時に学年部会を開催し、多くの保護者に参加して頂き、学年の取り組みを伝えることができた。研修旅行説明会において、行程・安全対策を丁寧に説明し、ご理解を頂いた。 さくら連絡網を活用し、生徒の学びの様子を発信できた。 研修旅行の事前準備などHR活動において、他者を思いやり、クラス全体の過ごしやすさを考える場を設けた。	・小規模校の特色を活かし、保護者との対話も深めて戴ければと思います。 ・学年通信を年度初めと、学期末に発行することができ、保護者に学校内での生徒の様子を伝えることができて何よりです。 ・PTA総会時に学年部会を開催し、多くの保護者が参加されたことは、大変嬉しく思います。 ・B評価となっていますが、内容を見る限りA評価に相当するのではないかと思った。家庭・学校と一体となって教育することに意味があると思いますので継続して頂ければと思います。 ・無事に事故無く修学旅行を終えられ、報告も適切であると思います。
		3年	○家庭・地域との協働関係を促進するために、生徒の学びの様子を積極的に広報する。 ○事故未然防止のための安全管理に務め、自他の命の大切さや他者への配慮を意識した姿勢と適切な判断力を育む。	B	学年便りの作成を行い、学校の様子を伝えた。進路説明会や三者面談を通して、協力体制を構築した。 安全管理に努め、他者への思いやりの気持ちを意識させることができた。個別案件への対応では、生徒保健課と連携を図りながら学年で役割を分担し対応することができた。	・小規模校の特色を活かし、保護者との対話も深めて戴ければと思います。 ・学年便りを発行することができ、保護者に学校内での生徒の様子を伝えることができて何よりです。 ・進路説明会や三者面談も無事に行うことができて喜ばしい限りです。 ・保護者と1番密に連携を図らないといけない年代だと思いますので、協力体制が構築できたとあったので良かったと思います。 ・全員の進路が決まり、よくやってくれていると信頼しております。ありがとうございました。